



### 経鷺会第19回定時総会報告

\*総会：平成19年11月10日（土）15：00～16：00  
 上智大学L号館8階821号室、出席者数160人。  
 柳本会長あいさつ：

別項記載の役員改選、規約改定、当会創立20周年の趣旨説明のあと、今回の総会をもって退任したいと述べた。2期4年間にわたり、エコノミアンのHP化や会員からの「会費収入金管理システム」の構築などに一定の成果をみたが、会員の会費納入率低迷（10～12%）は引き続き当会の大きな課題であり、役員、会員に協力を求めた。

議事：

決算報告、事業計画、予算案につき審議、承認のあと、役員改選（任期19.10～21.9）では会長に戸川宏一氏（S38 経商）、副会長に濱口敏行氏（S42 経商）、秋元征紘氏（S43 経経）、三木真弘氏（S46 経経）の3人が選ばれた。

また、財政建て直しのための規約の改定（別記）を承認し、20周年記念行事構想には全員一致で賛成した。

\*講演会：

総会終了後、同じ場所で17：30まで、スパークス・グループ(株) 阿部修平社長（S53 経・営）による『日本の金融市場における企業価値創造と経営者の役割』と題する講演会に入った。

戦後の日本は中央官僚と伝統的な銀行組織による戦略的、効率的な資金配分機構の中で成長してきたが、年金資金の増大とともに、日本のみならず欧米においても「市場」が資金配分機構の中核を占めるようになった。市場は企業の価値を貨幣価値（株価）で計測するようになり、企業は資本コストを上回る収益率を上げることを期待されている。経営者がいかに企業価値を向上させるか、そうした金融環境の変化のなかで、阿部社長は“キャピタル・ナビゲーターになりたい”と結んだ。

\*懇親会：

17：30から9号館地下カフェテリアにて懇親会。来賓にはピタウ先生、上智大学副学長 山岡三治先生、同経済学部長 杉本徹雄先生、ソフィア会会長代行・和泉法夫氏のみなさんからご挨拶をいただいた。年に一度の懇親パーティなので、会員交流の2時間は盛大であった。



ピタウ先生のご挨拶

### 会則（会費）の改訂

経鷺会はソフィア会のように在学時に納めた会費で運営されているわけではなく、当会会員の会費収入で成り立っております。しかも、現状では会費納入者が1000人程度に止まり、収入の多くが1万人の会員への「エコノミアン」発送代で費やされてしまい、経鷺会活動が制約されております。

今後は会員各位にさらなるご協力を呼びかけ、会費納入人口（会員数）を増やす努力をするとともに、エコノミアンの発行を紙からWEBへ少しずつシフトするなどして費用を節約し、貴重な会費収入を会報誌はもとよりWEB運営によって会員交流機会の増大を図り、現役学生への奨学金支援等、もっと幅広い活動にも使用できるよう検討中であります。

当会としては、適正な運営資金を確保して健全な維持運営を期するため、会の発足当初から変更していなかった年会費を、この際、他大学の学部同窓会を参考にして、より現実的な額に改訂することになりました。

よって、会則第3章第5条-6「会員の資格」中、年会費2,000円を3,000円に改正いたします。

会員のみなさまにおかれては、以上の趣旨をご理解のうえ、なにとぞ、ご支援ご協力をお願いいたします。





**母校経済学部 95 周年と経鷲会 20 周年の  
 記念行事にご参加を！**

戸川 宏一（経鷲会会長）

今年は、母校経済学部の95周年と経済学部卒業生の会である経鷲会の創立20周年を迎えます。この区切りの年に、経鷲会では経済学部とタイアップして、「経鷲会奨学金制度の発足」と「11月15日(土)の記念イベント」(現在、構想中)を行うことにしています。私達の輪に加わって、この記念事業成功のためにご協力下さい。

昭和63年、大学と経済学部の創立75周年記念集会の時に、記念行事として経済学部同窓会の設立が決まりました。翌年の平成元年11月4日、同窓会を設立し、名称を「上智大学経鷲会」として、故伍堂光雄会長の下に発足致しました。それ以来、事業企画等を通して会員(同窓生)相互の交流・相互支援・情報交換や現役学生との交流を図り、経済学部同窓生にとって「知と遊びの有益なネットワーク」を作りあげながら活動してきております。

本会設立20周年の節目に当たり、経鷲会がどうあるべきか、関係者で原点に立って考えた結果、「建学の精神である“キリスト教ヒューマニズム”と“世界の人々と共に歩む国際性”を踏まえ、経済学部卒業生を中心に、互いの交流を密にして、参画する喜び、語る喜び、学ぶ喜び、協力する喜びを共有し、大学並びに経済学部の更なる発展に寄与し、日本と国際社会に貢献する多くの人材輩出に協力したい。」という考えになりました。

この理念をもとに、経済学部長とも相談しながら検討を重ねた結果、この度、経鷲会の設立20周年と経済学部創立95周年を記念して、

- 1) 経済学部学生のための「経鷲会奨学金制度」をスタートさせる。
- 2) 今年11月15日に記念集会を開き、記念講演、シンポジウム、祝賀会等を開催する(現在、イベント実行委員会で検討中)。

これらの実現のため、多くの経済学部卒業生が私達の輪の中に加わって下さるよう、お願い致します。

**ソフィア 95-20 イベント (予告編)**

上原 隆一 (イベント実行委員長・S51 経営)

100年前の1908年、ローマ法王が日本にカトリックの大学を創建する下地があるかを確かめるため3人の神父を日本に派遣しました。その5年後、1913年に哲学科、ドイツ文学科、商科(現経済学部の前身)の3つの学科をもって本学は開校されました。今年はその歴史の節目100年と共に大学(経済学部)創立95年、経鷲会発足20年となります。これを機に母校で大勢の卒業生と一堂に会し、楽しく、有意義な時を過ごして戴きたく11月15日の経鷲会総会当日に合わせ記念イベントを開催する運びとなりました。

現在、ソフィア95-20イベント(仮称)実行委員会を核と

して皆様に喜んで戴けますよう経鷲会全役員が総力をあげ取り組んでいます。具体化にはなおしばらく時間がかかりますが、検討中のものを含め、当日のラフなスケジュールは次の通りです。

尚、このイベントに関する具体的なご希望、ご提案、アイデアがありましたら、メール等で是非とも早めにお声をお掛けください。経鷲会ホームページにもその都度、内容を発表していきますのでチェックをお願いします。

**2008年11月15日(土)のスケジュール**

- 13:00 経鷲会代議員会・総会
- 13:30 記念講演会、シンポジウムなど検討中。
  - \*学長、ピタウ先生、歴代学部長～「大学の歴史、存在価値を語る」
  - \*なつかしい先生方のアンコール講義
  - \*ソフィアン経営者10人のトークなど
- 16:30 祝賀懇親会

**〒払込取扱票を同封しました！**

“95-20”(経済学部95周年・経鷲会20周年)イベントの実現に向けて、同封の〒払込取扱票(通信欄)に次の項目を掲載しました。

- 1. 会費(年間)・・・3,000円
- 2. 参加費(記念講演、祝賀会等)・・・5,000円
- 3. 寄付金(奨学金)・・・2,000円

それぞれの趣旨につきご賛同いただき、なるべく全項目につき、ご支援をよろしく申し上げます(イベントに参加できない場合には1、3をお願いいたします)。

**1万人への会報送付に限界！**

豊田 圭一

(経鷲会ホームページ小委員会・H4 経経)

約1年半前に経鷲会のウェブサイトをつくり、Economyanのバックナンバーをオンライン上で読むことができました。経済界で活躍している先輩方のインタビュー・コーナーなどもつくりました。

会報エコミアンの年2回送付費用を節約するため、今号をもって経済学部の同窓生全員にEconomyanをお送りするのは最後となり、次号以降は会費を支払って下さった方だけに郵送させていただくことになります。当会の財政事情をご賢察いただき、未納付の皆さんには同封の「払込票」で是非ともご支援いただき、当会の輪が広がるようにご協力下さい。

これからウェブサイトのコンテンツをいっそう充実させ、紙からオンラインへの移行も強く推進していきます。定期的に、下記のウェブサイトをチェックしていただけますよう、お願いいたします。

上智大学経鷲会 [Economyan] <http://www.economyan.com/>

## 先輩インタビュー

## Vol.4

ニフティ株式会社 取締役社長 兼経営執行役社長 和田一也さん (S46法・法)

## きちんと話すことが人生を決する

聞き手：マリー秋沢 (H5比文、賛助会員)・本谷隆光 (H6経経)

☞本谷：和田社長の座右の銘（「心は行動となり、行動は習癖を生む。習癖は品性を創り、品性は運命を決する」(京都大仙院の庭にある尾関宗園和尚の訓辞)）をうかがい、感銘を受けました。

☞和田社長：「心は行動となる」という部分に表れていますが、やっぱり人間は心で動き、行動する。行動は続けていればやがて習癖になり、それがその人の品性・品格というものに深く関与する。そして、何よりも人が持つ品性・品格はその人自身の人生や運命を決めるものだと思うんです。

その品性・品格はやっぱり学生時代に養われるものだと思います。

☞マリー：上智大学ではどんな学生生活を送られたのですか？

☞和田社長：学生運動真っ盛りのなかで、日本や世界のことをきちんと議論し、大変面白かったんですよ。明治維新の天下国家を語ると同じ気持ちで、「相当話し込んだ」思い出がありますね。

☞マリー：上智の印象は、どちらかというと、議論をぶつけ合うというイメージがあまりないのですが・・・。

☞和田社長：とんでもない(笑)。我々の頃は全く違います。きちんと話ができる人間が周囲にいるというのはとても大切です。正確な日本語で相手にわかるように話ができるか否かというのは人生を決しますよ。

☞マリー：私も通訳をしていた経験がありますが、正確な言葉遣いはだいじですね。

☞和田社長：通事が実権を持つてはいけなんでしょうが、言葉が通じなければコミュニケーションはあり得ない。私知っているある米国籍のコンピューターメーカーでは英語ができる人材が出世した時期と、コンピューターのシステムが本当にわかる人材が出世した時期があるんです。本来あるべき姿は後者でしょう。語学に力を入れる大学だからこそ、上智の皆さんにはそのことを伝えたい。それからもう一つ、日本語をきちんと喋れない人間が外国語を喋っても内容はないということです。これは特にビジネスの世界では大切。胸に刻んで欲しい。

先ほどもお話したような学生運動が盛んな時期に、色んな方にご迷惑を掛けただけで、学生時代にあれだけ対決し反抗するという経験はほかにないですね。様々なことを熱く語り合い、学生時代に「何を感じたか」がとてつもなく大事だと思います。

☞本谷：和田社長と言えば、富士通時代からその猛烈な仕事ぶりが大変有名だったと聞いています。西日本新聞に100回通い詰めた話や、ニフティでも土日返上で働くなど、すごい



中央が和田社長

逸話を耳にします。

☞和田社長：エピソードだけ取り上げられても困るな(笑)。でも仕事は、とにかく「集中する」ことが大切です。富士通という会社は何万、何十万という商談の上に成り立っている企業。そこには必ず膨大な数のライバルがいて、勝ち負けがあります。当然その競争には勝たなくては売上が成り立ちません。

我々は組織で動いていますから、私一人がどんなに頑張っても、1.2人月くらいが精精でしょう。今600人の部下がいます。その人たちが1割多く働いてくれて、1.1人月換算となれば、60人従業員が増えたのと同じことです。部下のモチベーションが上がるというのは、数字で換算しても、とんでもなくすごいことがわかるでしょう。上司が部下のモチベーションを上げるために腐心するというのは、マネージメントの基本中の基本でしょう。

モチベートするというのは色々な手法がありますが、調査してみると、お金であげられるモチベーションというのは極めて少なく、何よりも気持ちの部分、つまり、やりがいなど心によるものが大きいんです。これまでに私の得た教訓は、「部下とどれくらい密接な、本当のコミュニケーションをとれるか」が大切だということです。

☞和田社長：大切なのはお客様、関係者、部下という様々な人たちときちんと話すということです。そうやってきちんと議論し、話していれば、自然と情報は集まってくる。何より確実なコミュニケーションが仕事の基本なのです。「部下を信じ、一緒に汗を流し、信じた方向に突き進む」ということしかないですね。そうした中で、私は3つの約束というのを明言しています。

1. やりがいを支援する。
2. 現場の声を聴き、理解する。
3. 全てのプロセスで責任を明確にする。

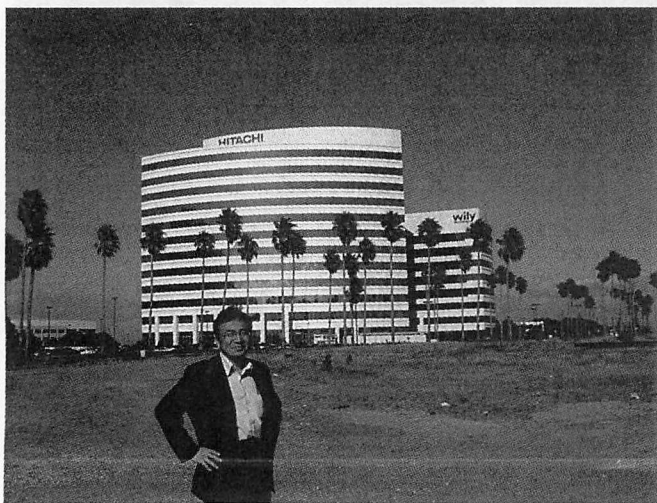


◎マリー：いまの学生へメッセージを頂きたいのですが。  
 ◎和田社長：「器をとにかく大きくすること」。そして「一心不乱に生きろ」そう伝えて下さい。今は繊細な人がすごく多い。ピンチになって自分が追い込まれると本当に参ってしまう。ちょっとストレスに弱い気がしますね。そのストレスを上手に解消できる方法を学生のうちに見つけておいて欲しい。真面目なのは悪いことじゃない。ただ、一生懸命勉強して成績を上げることに終始してしまうより、本来その時期養わなくてはならない感性や経験、ストレスとの対峙の仕方などを身に付け、楽しかった大学4年間を送って卒業してくる人間の方が、我々としては使いやすい。

(以上)

## 海外プロジェクトをやってみたいんです！

—米国でのシェアードサービス  
 立ち上げ奮戦中—  
 菅宮 徳也 (S56 経・経)



オフィスを背にして

私は、日立製作所のコンピュータ事業部に入社して26年間、東南アジア向けの事業企画部門、シンクタンクの研究員、システムインテグレーション事業の企画部門と、社内のさまざまな企画部門を渡り歩いてきました。それなりに、企画マンとして適応力は人並み以上と自負していたところ、一昨年、米国に赴任してIT運営コストを下げろというミッションを与えられ、48才にして初めての本格的な海外駐在を始めました。企画マンとして腕の見せ所の大チャンスをもらいました。

思えば飲み屋などで、同僚や上司に「海外プロジェクトをやってみたいんです」と口走っていたことが、私の人事に作用したようです。何が人事に幸いするかわかりません。

私の仕事は、北米に展開している80社におよぶ日立グループ企業のIT運営をシェアードサービスに切り替えること。ただ、私が考え付いたやり方はかなり強引なもので、80社のうちシリコンバレーに本拠地を構えるITコストが大きい上位3社のIT部門をひとつに組織統合。その組織が3社共通

のIT部門としてシェアードサービスという形で、もとの会社に運用サービスを提供するというもの。ユーザ企業数が増加するほど、規模の経済が作用し、ユーザ企業のコストは下がるという計算になるわけです。

ただ、同じ日立グループ内とはいえ、実際はバラバラな企業文化をもつ企業合併という色合いが濃く、我武者羅に取り組んでいるうちに、M & Aを手がけているような状況になってきてしまいました。そのため、昨年一年間は人事施策の調整や、組織の変更に時間をとられてしまい、それまで個々の企業がIT部門を運営している状態から大差ないサービスしか提供できませんでした。

こうして、企画倒れで実行がついてこないという危機的状況が長く続いてしまい、ユーザの不満顔、従業員の不安顔に囲まれ、ストレスから眠れない日も多くありましたが、掲げた理念に現地人従業員が少しずつ共鳴してくれ、一つ一つ改善を行い、現在は当初計画した作戦を実行に移す段階にまでこぎつけることができました。

このようなドタバタが長く続いてきましたが、最近はサンフランシスコの中心部に、行きつけのジャズ・スポットを見つけたり、クリスマスにはラスベガスまで長距離ドライブをしたりと、遅ればせながらも米国駐在を楽しむ余裕ができました。

読者の中で同様のシェアードサービスを立ち上げるなどのミッションが与えられた場合は、ぜひご一報ください。多少のアドバイスはできるはずです。サンフランシスコ名物のカニ料理、ナパバレーのワインなどで大歓迎します。

(内野ゼミ同窓会「二一会」会員)

## 「食」を通じたネット広告 ビジネスの世界

高増 文 (H15 経・経)



友人と二人で (左が筆者)

春たけなわ、皆様いかがお過ごしでしょうか。H15年経・経卒の高増と申します。

私は、学生時代には田中利見ゼミ広告研究班で学び、その後は3年半に渡って、広告代理店でテレビCMのバイイングに携わってきました。華やかな外見とは裏腹に、体育会系で

泥臭いような側面がとっても大切だった広告・テレビのビジネス。

そこでは、学生時代まではおよそビジネスにとって大切だとは思ってもいなかった“先輩との上下関係”や“人と人とのつながり”の大切さなどを学ばせて頂きました。

そこで得た経験を活かして、現在は「食」を通じたインターネットでの広告ビジネスの世界で日々邁進しております。日本の外食という世界もまた、古き価値観を大切にしてきた世界です。それとインターネットという新しいコミュニケーションツールを融合し、昇華させるべく勉強の日々です。

まだまだ未熟者ですが、広告会社時代からの仲間や、新しいネットビジネスにおける同僚、そして経鷲会で出会った先輩方など周りの方々との出会いにも恵まれて、忙しくも充実した毎日を送っております。皆様これからもどうぞ宜しくお願い致します。

## 経鷲会への手紙

西村 裕夫 (S48 経・経営)



はじめまして。

昭和48年経営学科卒の西村と申します。何度も経鷲会の会報などを頂きながら、仕事の都合で会へのご連絡が遅れました。正式に入会致したく思いますので、申し込み用紙をお送りください。

私は昭和48年経営学科を卒業後、(株)ブリヂストンに入社し、現在も勤務しております。昨年4月までタイに4年間駐在し、その間に副学長の訪問受入れなどバンコック・ソフィア会にも関係しました。

在学時は高宮先生のゼミで、同期には小林順治教授、亡くなりましたがRoger Downey先生もおりました。

以上、簡単な自己紹介ですが、経鷲会で貴重なお話なり、人の輪が広くなればと楽しみにしております。申し込み用紙の送付を宜しくお願い致します。

### ◇当会事務局からの返信

西村さん、お便り拝見しました。懇切なメールをお送りいただき、有難うございます。

さて、経鷲会は経済学部の卒業生すべてが自動的に会員になる任意な団体で、経済学部OBなら誰でも会員であり、お便りにあるような「申込書」は一切ありません。会員には2,000円(今回から3,000円)の年会費で支援いただいております。

旧知のネットワークや新たな人脈形成を狙いにした「知と遊びの倶楽部」を目指しています。エコノミアンを年2回発行して会員の消息や当会の活動、計画を紹介したり、他にも会員同志の懇親会や教授との会合、講演会、ゴルフコンペ等々、いろいろな機会を設けています。

現在、実働20人弱の役員が手分けして月1回程度ソフィアズクラブで会合し、ボランティアに会の運営を分担しています。西村さんにも、機会がありましたら会の運営に関与してもらえませんか。以上、簡単ですが、返信といたします。

### ◇西村さんから返信

ご丁寧な返信ありがとうございます。

小生、現在(株)ブリヂストンの経営監査部に在りまして、国内外の出張も少なくないことから、どの程度お手伝いできるか不安ですが、出来る限りのことはさせていただきます。とりあえず、明日にでも三菱UFJから会費を振り込みます。

## 男と女とサルサと私

松井 淑乃 (S62 外・英)



半年前、サルサを始めた。偶然見つけた、あるサルサ・インストラクターのブログ(<http://salsaconsullivedoor.biz/>)の言葉に衝撃を受けたからだ。いわく、「サルサは男をより男らしく、女をより女らしくする」。

極めつけは「責任の重い仕事に携わる女性ほど、サルサを踊って男性に手のひらで指示されることが実に心地よい

ことに気付く。それが女性本来の快適さにつながるからだ。正直、頭に血が上るのを感じた。世間が決めつける「女らしさ」と戦ってきた自分の半生を、根底から否定されたように感じた。

そして今、私はサルサに夢中である。男に指示されるのが快適とは思えないが、エネルギーの塊のような、その女性インストラクターと踊る時は、確かに感じるのだ、心地よさを。

(経鷲会賛助会員)

## 平成卒業生が集う

### 『Neo Sophian』

会長 角井 亮一 (H3 経・経)

今年3月、『NEO SOPHIAN』という会が出来ました。平成卒が中心となり、わいわい楽しみ、友達の輪が広げられる会です。実際には、いろんな学部出身者、約30人が参加し、初めて会う者同士に思えないくらい会話が弾み、笑いが絶えませんでした。

隔月で開催を予定していますので、ぜひ一度ユニークな同窓仲間が集まる『NEO SOPHIAN』のイベントにお越し下さい。

HP: <http://www.economyan.com/neosophian/>

次回予告: 5月20日 銀座のバーにて

情報希望者は [neo@economyan.com](mailto:neo@economyan.com) にご連絡下さい。

## 日本百名山100座達成!!

池谷 誠司 (S37 経・経営)



2007年10月13日(土)大安吉日の午後0時25分、草津白根山にある本白根山(2,150m)の頂上に立ち、念願の100名山完登が達成した。しかも体重9キロの孫娘を背負い、妻と娘2家族(孫3人を含めて)を引き連れての達成だったので、喜びもひとしおであった。もともとは最後の100番目の山を赤城山と決めていたが、ここは2年前に登頂したので、急遽、家族と登れる草津白根に変更して残しておいた山である。

頂上では、長女の子供2人が作ってくれた長さ3mもある横断幕を広げて、家族全員が記念写真に納まった。

100座登頂を終えて振り返ってみると、第1回目は1959年8月10日、上智大学ハイキング同好会でエルリンハーゲン先生引率による八ヶ岳赤岳(2,899m)の登山であった。そのころから深田久弥の「日本百名山」を知り、あれから48年目にして100番目を終えた。それぞれ思い出多く、魅力を感じているが、その中から強いて自分のベストスリーを選ぶと、①剣岳(2,998m、北アルプス)、②槍ヶ岳～穂高岳縦走(3,180m～3,190m、北アルプス)、③幌尻岳(2,052m、北海道日高山系)となる。

今後は茅が岳(深田久弥が落命した山)や熊野古道/六十里越えなどが意中にある。

## 「上智不動産ソフィア会」 のご案内

会長 大越 武 (S43 文新)

副会長 小國敏雄 (S53 経・営、不動産鑑定士)

私ども「上智不動産ソフィア会」は3年前の平成17年6月に設立されたOB会です。構成会員は大手・中堅・中小零細の住宅・不動産業、建設業はじめ、それらに関連する金融・保険業、登記測量、鑑定・査定、設計、コンサルティング、法律、会計、税務、リート、国際取引、リフォーム、管理・メンテナンス等、多岐にわたり、国際色豊かな上智ならではのメンバーをそろえ、女性会員も多く、総勢60名ほどです。

毎月1回、昼の「ランチョン・ミーティング」と夜の「例会」とを交互に「ソフィアンズ・クラブ」で開催し、会員相互の親睦と信頼関係を図り、仲間うちでの不動産取引の成約も見られるなど、実利的な“不動産ビジネス”の成果も挙げております。

また、上部団体の首都11大学のOB会で結成されています「大学不動産連盟」にも正会員として加盟して幅広く活動しておりますので、関係ソフィアンズの入会大歓迎です。

(連絡先)

〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北1-3-13 小國ビル2階  
中央不動産鑑定(株) 代表取締役 小國 敏雄 (Toshio Oguni)

TEL 03 - 3339 - 3800

FAX 03 - 3339 - 9058

携帯 090 - 3698 - 9923

E-MAIL aprex@aprex.co.jp

HP <http://www.aprex.co.jp>

## ASFはSJガーデン に集まろう!



今年も経鷺会はオール・ソフィアンズ・デイに卒業生のための席を設けます。

普段は立入ることのできないSJガーデン、クルトルハイムに隣接した新緑眩しい庭園で、ワイングラスを傾けながら友と語らい、ゆったりとした時間をお過ごし戴けます。

◆ASF当日「経鷺会特設席」のご案内

日時：5月25日(日) 11:00～14:30 お好きな時間にいらしてください

場所：SJガーデン(雨天の場合は9号館のカフェテリア)

講習会開催時間：13:00～14:00 予定

(1) 日本酒の解説と利酒

ソフィアン経営の酒蔵から数多くの日本酒を集め、醸造法解説と利酒を行います

(2) ワイン講習会「ここまで高品質!日本のワイン」。

日本のワインは研究者の弛まざる研鑽の結果、世界に誇れる高品質のワインに生まれ変わっています。本年もメルシャン様の絶大なるご好意を戴きました。

講師：上原隆一 (S51 経営卒、日本ソムリエ協会認定シニア・ワインアドバイザー)

### メールアドレス登録のお願い

会員の皆さんのメールアドレスを下記へ登録してください。当会より色々なご連絡を差し上げます。

登録先アドレス：webmaster@economyan.com

